



経験と勘がものを言う林業の現場ですが、機械化も着実に進んでいます。組合では、すでに集材機「フオワーダ」(三台)、造材機「プロ

腕の長さはダテージやない ロングリーチハーベスターを導入しました

セッサ」(一台)、作業道開設のための機械「フェラーバンチャザウルスロボ」を導入し、これら高性能林業機械が活躍しています。

これらの機械を駆使し、昨年度は約九千m³の素材を生産。今年度は一万m³を目指しています。

今年二月、新たに「ロングリーチハーベスター」が加わりました。この機械は、文字どおり長い腕を使い、機械から遠く離れた樹木をつかみ、伐倒、枝払い、玉切りまでを一台で行える優れものです、現場での作業効率が大幅に向上しています。

伐倒できる木の最大径は五十五cm、十メートルまで伸びるテレスコピックアームを備えています。

CLTをご存じですか？

PCR、SNS、CEOなど、世の中にはアルファベットの3文字言葉があふれかえっています。漢字であれば多少省略されても何となく意味がわかりますが、アルファベットではそうもいきません。

そこで、あえて皆さんにお尋ねします。CLTはご存じですか？



群馬県初のCLT建築「榛名神社奉納額収蔵庫」

CLTの省略前のつづりは、Cross (クロス) laminated (ラミネーティッド) timber (ティンバー)。直訳すると、木材の纖維方向を直交させた集成材、日本語の呼称は「直交集成板」となります。

木材は火災に弱い、また強度も低く中高層建築の構造材には使えない。そんな固定概念を覆す木材、それがCLTです。

このCLTの発祥はオーストリアで、ヨーロッパではこのCLTでつくった高層建築が数多く建てられています。

わが国でも、政府が「CLTの普及に向けたロードマップ」を作成する等、普及を進めしており、すでにホテル、校舎、オフィスビルなどが、このCLTを使って建築されています。

組合の管内では平成29年2月に竣工した榛名神社の奉納額収蔵庫が、このCLTでつくられています。